

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道331号 <small>とみぐすく</small> 豊見城道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけん</small> 沖縄県豊見城市瀬長 至： <small>おきなわけんいとまんしにしぎま</small> 沖縄県糸満市西崎				延長	4.0km
事業概要	豊見城道路は、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道331号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス性向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、県南部地域の活性化や物流効率化、さらには観光交流を支援する道路で豊見城市瀬長から糸満市西崎に至る延長4.0kmの地域高規格道路である。					
H元年度事業化	H10年度都市計画決定 (H一年度変更)		H10年度用地着手		H13年度工事着手	
全体事業費	405億円		事業進捗率	約88%	供用済延長	4.0km
計画交通量	36,900台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.6 (残事業) 8.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 44/512億円 事業費：26/470億円 維持管理費：17/42億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 352/1,867億円 走行時間短縮便益：290/1,538億円 走行経費減少便益：38/237億円 交通事故減少便益：24/92億円	基準年 平成25年		
感度分析の結果	【事業全体】 交通量：B/C=3.2~4.0 (交通量±10%) 事業費：B/C=3.6~3.7 (事業費±10%) 事業期間：B/C=3.6~3.7 (事業期間±20%)					
	【残事業】 交通量：B/C=6.5~9.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=7.6~8.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=7.8~8.2 (事業期間±20%)					
事業の効果等	①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減量：【整備なし：159万人時間/年→整備あり：24万人時間/年】 ②物流効率化の支援 ・農産物出荷の搬送時間の短縮が見込まれる。JA糸満の集荷場に近い糸満市真栄里交差点～中央卸売市場（浦添市）の所要時間が短縮【現況一般道：44分→将来豊見城道路完成開通：31分】 ③個性ある地域の形成 ・那覇空港から沖縄戦跡国定公園の中核施設である平和祈念公園への所要時間が短縮【現況一般道：43分→将来豊見城道路完成開通：32分】 ④安全で安心できる暮らしの確保 ・糸満市役所から豊見城中央病院（二次医療施設）までの所要時間が短縮【現況一般道：22分→将来豊見城道路完成開通：12分】 ⑤地球環境の保全 ・CO2排出量が0.9万t/年（0.48%）削減【187.7万t/年→186.8万t/年】 ⑥生活環境の改善・保全 ・NOX排出量が25.39t/年削減（55.4%）削減【45.82t/年→20.44t/年】 ・SPM排出量が1.47t/年削減（56.6%）削減【2.59t/年→1.13t/年】					
関係する地方公共団体等の意見	沖縄西海岸道路は、沖縄本島の骨格となるハシゴ道路において、主要な幹線道路となる地域高規格道路であり、那覇空港自動車道、沖縄自動車道と一体となって、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担っている。 豊見城道路・糸満道路は、その沖縄西海岸道路の一部を形成し国道331号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通渋滞緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、県南部地域の活性化や物流効率化、さらには観光交流の支援する幹線道路である。 平成24年3月の豊見城道路・糸満道路全線暫定供用後には、国道331号の混雑が多少緩和されたが、全線暫定供用後も依然として混雑度が1.5以上を超え慢性的に混雑している状態であり、交通円滑化を図るため早期の全線4車線整備が必要であると考えます。 したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。					

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・豊見城市をはじめ本島南部に位置する自治体の人口等の伸びが大きい。
- ・豊見城道路・糸満道路沿道には、豊崎タウン、潮崎タウンをはじめ、アウトレットモールあしびな一等の店舗増設、運転免許センターの移設、観光プラザていぐま館の開業等、様々な施設の立地が進んでいる。
- ・沖縄県の観光入込客数の増加に伴い、観光の起点となる那覇空港へのアクセス道路である豊見城道路・糸満道路の重要性が高まる。
- ・豊見城・糸満道路が全線暫定開通したが国道331号はいまだ交通容量を超過している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率約88%（H25.3末現在）、用地進捗率約100%（H25.5末現在）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成27年度完成4車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。